

# CASBEE® 京都-新築

## 標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE京都-新築（2015年版）|使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2015（v.1.0）

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都市美術館再整備工事	階数	地下1階、地上2階
建設地	京都市左京区岡岡円勝寺町124	構造	S造
用途地域	第二種住居地域、法22条区域	平均居住人員	0人
気候区分	6地域	年間使用時間	0時間/年
建物用途	事務所・物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年10月 0.0	評価の実施日	2017年12月8日
敷地面積	25,384 m <sup>2</sup>	作成者	(株)松村組
建築面積	8,213 m <sup>2</sup>	確認日	2017年12月8日
延床面積	18,710 m <sup>2</sup>	確認者	(株)松村組



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5** ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 4.5

**LR のスコア = 3.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b>		昭和8年に建てられ、重要文化財登録を目指している京都市美術館を保存し再整備する計画である。
昭和8年に日本で二番目に建てられた美術館の増築と改修計画。これまでの文化的蓄積を継承し、スロープ広場や新館のホワイトキューブ展示室など、新たなものを取り入れながら未来へつないでいくために現代のニーズに		
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b>
化学汚染物質の発生源対策を行っている。ゾーン別に温度湿度の調整が可能。	維持管理に配慮した内外装の選定や機能の確保を行っている。また、大型展示にも対応できる、階高のゆとりを持った計	風致地区内でまちなみや地域性に配慮した計画として認定を得ている。敷地内の緑地を極力保全し生物環境や温熱環境に配慮して
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>
外壁開口部（窓）の少ない建物とし、外皮の熱負荷抑制を図っている。太陽光発電システムを採用している。エネルギー消費の内訳を把握し、運用管理体制を定めてい	エコマークを取得したビニル床タイルなどのリサイクル資材や、有害物質を含まないシーリング材などを使用している。	建物の熱源を電気として燃焼機器を用いず大気汚染の防止に配慮している。また、雨水排水負荷を低減する貯留槽を設けている。照明や外壁による光害防止にも取り組んでいる。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される